

# 大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

春季号 [No. 47]

2021年 4月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com



上は日本三名鐘の一つ「音の三井寺」として有名な鐘撞き堂

右の使用写真：能『三井寺』シテ・味方玄(みかたしずか)

於：京都観世会館 撮影：金の星渡辺写真場



## 幽玄の能は大津から

清らかな水と緑に囲まれたさざ波の大津のこの辺りは、古くから芸能の都でした。

「推古天皇の御代に聖徳太子が帰化人の秦河勝はたのかわかづに言いつけて、世の平安の祈りと多くの人達の楽しみにと芸能を創作させ、子孫がそれを代々継承し、大和の春日(かすが)と近江の日吉(ひえ)の両神社に奉納する様になった」と、能の始まりについて世阿弥の書いた風姿花伝(ふうしかにでん)にあります。

日吉神社に奉仕していた犬王(いぬおう)・道阿弥(どうあみ)の優美な芸は、年下で大和の座頭となる世阿弥に大きな影響を与え、物真似から幽玄な能へ大成させました。日吉の座にはその後を継ぐ者がなく絶えたのが残念ですが、今も湖西に犬王の血が流れているのではないのでしょうか。

さて、能について解り易く述べましょう。若い人達に「能は日本のオペラ」とよく紹介します。楽器(囃子)は笛・小鼓(こづみ)・大鼓(おおかむ)・太鼓(たいこ)で構成され、これに台詞(せりふ)・歌・舞をあわせて、一曲を演じます。オペラ程大がかりではありませんが、その澄み透った美しさと力強さは、日本人の磨かれた感性によるもので、欧米人も驚く程。世界文化遺産として多くの国で上演されています。

能のテーマは大きく五種類に分けられ、喜怒哀楽の人の心や、樹木の心にも及び深く純な心が描かれていて、忙しい現代人のよい勉強になるのではと思います。また、日本の能は英国の古い劇作家で有名なシェイクスピアの二百年以前、今から七百年前の中世に観阿弥・世阿弥の父子により大成しましたが、今も活々と迫り決して古いものでなく、日本の誇りとして後世に皆で伝えたい大切な宝です。大津謡曲同好会では、少しでも若い人達に伝えたいと「世阿弥の曲に親しむ会」を年十回催し、十二年目を迎えます。

大津市文化連盟 勸世流謡曲名誉師範

大津謡曲同好会 北村 初子